

## 令和2年度山形県環境審議会 第3回環境計画管理部会 議事録

### 1 日 時

令和3年1月21日（木） 午前10時～午後0時10分

### 2 場 所

あこや会館 ホール

### 3 出席者等（敬称略）

#### (1) 出席した委員及び特別委員

青塚 晃 石塚 久子 茨木 麻衣 國方 敬司 内藤いづみ 堀川 敬子  
三浦 秀一 渡邊 元子  
田中 祐正（東北経済産業局長代理） 中山 隆治（東北地方環境事務所長）

#### (2) 欠席した委員

青柳 紀子 伊藤 泰志 本橋 元

#### (3) 出席した事務局職員（課長級以上）

環境エネルギー部長	杉澤 栄一
環境エネルギー部次長	鏈水 功泰
環境科学研究センター所長	安部 悦子
環境エネルギー部環境企画課長	佐々木紀子
エネルギー政策推進課長	高橋 徹
水大気環境課長	高橋 佳志
循環型社会推進課長	三浦光一郎
循環型社会推進課廃棄物対策主幹	青木 政浩
みどり自然課長	石山 清和

### 4 会議の概要

#### (1) 開 会

#### (2) 挨拶

開会に当たり、杉澤環境エネルギー部長及び國方環境計画管理部会長から挨拶がなされた。

#### (3) 議 事

##### ① 議事録署名人の指名について

議長から、議長以外の議事録署名人として、石塚久子委員及び渡邊元子委員の2名が指名された。

##### ② 第4次山形県環境計画（仮称）の素案及び第3次山形県循環型社会形成推進計画（仮称）の素案について

初めに、事務局から、第2回環境計画管理部会における主な意見、及び同部会以降の分野別の会議での審議過程等について、資料（4ページから5ページまで）により説明。その後、標記の

2つの素案について、資料（6ページから9ページまで）により一括説明。  
事務局の説明後、各委員から発言がなされた。

#### 青塚委員

- ・ 「ゼロカーボンへのチャレンジ」ということで、7月のゼロカーボンやまがた2050宣言や政府の脱炭素社会を目指す宣言を踏まえて構成されており、非常に時宜を得た、内容的にいいものと思う。
- ・ 県民主体、県民総ぐるみで取り組んでいくのだということ、人づくり、育成、教育、参加、協働、加えて、SDGs、新型コロナ等への対処も意識したものになっている。
- ・ コラムもあり理解を促している形にはなっているが、やはり一般県民には難しい項目が並んでいる。とりわけ目標年次の2030年を越えて2050年のゼロカーボンを目指すうえでは、若い世代にどう理解を促していくかがポイントになると思うので、子供たちや若者に理解を促すような子供版、ジュニア版、また、お年寄りにも分かりやすいようなガイド版的なものがあればよいと思う。
- ・ 環境計画素案39ページの「ゼロカーボンやまがた2050に向けた工程表」だが、この達成イメージを具体的に頭の中に描けるような資料、若者、子供でもわかるようなものが必要ではないか。
- ・ 前回、風力発電の事案からの文化的・歴史的な背景にも配慮していただきたいという意見が皆さんからあったが、その点については随所の書きぶりに現れていて、改善された。
- ・ 風力発電、それも洋上風力に舵を切るところが一番ポイントだと感じた。数字として淡々と示しているが、県としての覚悟が伝わってこない感じがした。原発1基分の再生可能エネルギーの導入を進めていくということなので、その辺の県の思いをもう少し出してもいいのではないか。
- ・ 環境計画素案48ページ、「(6) 自然環境や歴史・文化等との調和を図った再生可能エネルギーの導入促進」の中で、「知事が事業を認定する仕組み等を検討します」とあるが、県としての関与の仕方はどのようなイメージなのか。
- ・ 同49ページ、「各主体が配慮すべき事項・期待される役割の例」の事業者の欄の4番目、「特に県内事業者は、積極的に大手資本と連携・協業を図り、知識や技術を蓄積し再エネ業界に参入・起業する」とあるが、実態としてはそうなのだと思うが、グリーン成長を図っていくには、もう一步踏み込んで、主体的に、主導的にやっていくのだというような姿勢ももう少し示した方がよいのではないか。

#### 事務局（エネルギー政策推進課長）

- ・ 風力発電、特に洋上風力発電の取組みということだが、この事業は全国各地で進んでいるが、たいていは事業者が主導的に進めている。こうした状況の中で、本県では、県が音頭を取り、地元自治体への説明、漁業者への理解促進の取組みを進めている。他と比べれば、特色のある取組みと思っているが、それが伝わるよう表現を検討したい。
- ・ 知事が再エネ事業を認定する仕組みの検討は、昨年話題になった出羽三山周辺の風力発電の問題の際には、実際に事業自体は国への届出だけで進んでしまうということだった。地元自治体に判断する権限が与えられていないことから、知事が事業認定して、最終的に不適切な場合には認定しないことにより事業をストップすることができないか考えているところ。
- ・ 発電事業に関しての地元企業の主導的な参入については、意を配ってまいりたい。表現方法は考えたい。

#### 事務局（環境企画課長）

- ・ 若い世代へどう理解を促すかについては、動画、SNS等のツールを、世代ごとにどういったもので訴えると効果が上がるか検討し、世代に応じた効果的な発信手法を考えていきたい。特に若い世代は、デジタル化の流れを受けて、身近で情報を得られやすい状態にあると思うので、デジタルツールも積極的に活用していきたいと考えている。2050年の姿、達成イメージについては、環境計画素案39ページの工程表の右側に、特徴的なことについて、例えばZEB、ZEH普及率100%、電気自動車等普及率100%などを書いているが、それを社会の姿をイメージできるような絵を描く、図化するなど、何らかの工夫が必要かなと感じたので、検討したい。

#### 石塚委員

- ・ 環境計画素案45ページ、FIT制度について、国で大きく見直されているようだ。入札制度が拡大したり、地域での活用がないとダメなどあったりして、非常に厳しい条件が課せられているようだ。県ではやまがた新電力のような会社を推進しているようだが、今後、このような会社の創出の見通しはどうか、不安になってくる。
- ・ 私も、洋上風力発電のことが気になっている。先ほどの説明で、促進区域の指定として、遊佐町沖と、もう一つ考えているということだが、これも遊佐町の海域なのか。

#### 茨木委員

- ・ 私共、環境ネットやまがたは、山形県地球温暖化防止活動推進センターの指定を2004年に山形県知事によって指定を受け、16年近く、山形県と一緒に温暖化対策を行ってきた。今回の素案には、センターの記載がどこにもないようだ。山形県環境保全協議会、やまがた新電力、気候変動適応センターの記載もあるので、地球温暖化防止活動推進センターとの連携といった記載も検討いただきたい。
- ・ 循環型社会形成推進計画素案の8ページに「やまがた環境展」について簡単に触れられているが、毎年非常に多くの人々が来場するイベントでもあるので、写真なども掲載してコラムとして紹介してもよいのではないか。
- ・ 昨年度、循環型社会推進課で「3010運動」を紹介した三角柱やポスターを作成したが、私共も企業等へ配布するなど活用させていただいた。そういったものも計画の中で写真を入れてPRしてはどうか。

#### 内藤委員

##### （環境計画について）

- ・ 今回の計画の中心であるゼロカーボンやまがたの実現に向けて、ゼロカーボンとの関連性に配慮した構成で非常に分かりやすく拝読した。
- ・ 施策の柱1、意識改革と人材育成については、こうした計画の場合往々にして最後に記載されるところを、思い切って最初に掲載したのは、斬新であり、インパクトが強い。後半になりがちなこのような意識改革の問題を、その最初の部分で気候変動に関する世界との意識の違いについてのデータを載せることで、ゼロカーボンの問題を寄せてきたところが、非常に素晴らしい。
- ・ 素案81ページのSDGsの相関表について、循環型社会形成推進計画素案のものと比較したところ、ずれがある。

##### （循環型社会形成推進計画について）

- ・ 策定の趣旨について、今回環境計画でゼロカーボン社会の実現を大きなテーマとして標榜しているの、循環型社会形成推進計画でもこれと一体感を持たせる記載を策定の趣旨の中に入れてもよいのではないかと。特に、今回重要視されてきたプラスチック問題、食品ロスの問題も、CO<sub>2</sub>削減ということでは非常に関連しているの、ゼロカーボンとの関連性を明示するとよいのではないかと。
- ・ 第3章の目指す将来の姿については、第1章の策定の趣旨のところでもこれから展開することを最初に標榜するわけなので、目指す将来の姿は第2章に持ってきて、それに続けて、現状、課題、との流れにしてもよいのではないかと。
- ・ 素案28ページ、産業廃棄物の将来予測については、今回コロナの関連性で工事高や生産量の減少が言われており、それに伴い産廃も減少することが考えられるが、その点は十分反映されているか。
- ・ 素案31ページ、1人1日当たりの家庭ごみに係る目標値について、現状でまだ現行計画の目標を達成していないということで、令和12年度に430gと設定しているとのことだが、中間年度に440gで、そこから10gしか削減しないというのは、あまりにも機械的に捉え過ぎているので、もう少し県民に削減を要求するような形での目標を立ててもよいのではないかと。
- ・ 素案37ページ以降全般について、今回の個別の評価指標には新しいものも含まれているが、今までのものがかなり削られている。これらは達成したことにより今回採用していないのか、評価指標を削減したことにより見えなくなってくる部分はないのか。

#### 堀川委員

- ・ 前回、言葉が難しい、外国の用語が非常に多い、と申し上げた。脚注が多く入っているが、最初から続けて読んでいる分には理解できるが、やはり用語集の添付は必要。循環型社会形成推進計画の巻末には用語集が付いている。環境計画にもぜひ掲載してほしい。言葉が何回も出てきているので、その都度確認する必要があるの、用語集の添付は必要。また、該当する言葉にも網掛けや下線などを付して、後ろの用語集に説明があることがわかるようにしていただきたい。
- ・ 「チャレンジ」という言葉に違和感がある。しなければいけない、せざるを得ない、という状況まできているという切迫感が、チャレンジという言葉には足りない。ゼロカーボンへの道への一つのフェーズが、今の10年間はこれですよ、というような、私事として考えているときに、やる人とやらない人がいる、とか、失敗してもいいんです、とか、そういうものではないと思っている。言葉のイメージング、皆さんが持っているものをどこに持っていくかということとは非常に重要。
- ・ 計画を実施していくにあたっては、市町村レベルとの連携が非常に重要になってくる。人や情報が足りないところには県からどんどん入れて補っていくとか、その辺りの整合性をきちんと図りながら、一緒に進んでいかないと難しい。そういった意味で、地球温暖化防止活動推進センターの果たす役割も非常に大きい。また、県職員の皆さんも市町村にお住まいであるから、それをベースに、何々市に住んでいます、と、そういうことを入れるぐらいの気持ちで取り組まれてはどうか。

#### 三浦委員

- ・ 数値目標の設定について、「再生可能エネルギー導入量」は、分かりやすさという意味と、CO<sub>2</sub>削減、ゼロカーボンとの連動性という意味でも、なかなか伝わらないだろう。エネルギー政策推進プログラム検討委員会でも出ていたが、kWではわからない。世界的な評価指標でも

なく、非常に珍しい指標であり、結局分かりにくい。特にゼロカーボンとの関連性を分かりやすくするためには、パーセンテージが一番分かりやすいと思うので、パーセンテージの指標に変えていただきたい。

- ・ 環境計画素案47ページに、「再エネ熱」と出てくるが、この書き方だと伝わらないと思う。中身としてはバイオマスや地中熱のことだと思うので、そのように例示していただいた方がよい。
- ・ 県では、薪ストーブ、ペレットストーブに補助を出していて、これは全国的に見ても非常に珍しい、特徴的なこと。他県の方からは、山形県すごいですね、とよく言われる。そういう特徴をもう少し出せるように。それを指標化していくと、関連産業もやる気が出てくるはずだ。そういう意味では全体としての成長イメージをどう伝えるかということが今回の大きなテーマで、政府も出しているが、生活については「スマートで快適な暮らし」というような表現をしているが、もう少し色んな形で「豊かな」生活イメージ、あるいは「地域がどういうふうに活性化していくか」というイメージ、産業については、例えば、バイオマスストーブの会社、製造業であったり設置業であったり、そういう会社がどんどん活躍していけるとか、健康住宅、省エネ住宅であれば地場の工務店がどんどん元気になっていくとか、その成長イメージを伝えていけるといいのではないかな。
- ・ 先ほど洋上風力の話に懐疑的な意見が出ていたが、これも、地域にとってどういう関わりなのか、どんなメリットがあるのか、それが伝わっていないと思う。地域のためということで県が音頭を取っているのだろうと思うが、もう少しその辺のこうなったらいいということ、事業者への要望、国への要望というメッセージも含めて、山形県にとってプラスになるようにというメッセージも込めて書いていただいた方が、県民の理解にもなるし、国への働きかけにもなっていくのではないかな。
- ・ 自然環境部会でも申し上げたが、数値目標の「山岳観光者数」について、環境計画なので、できるだけ環境に則した表現がなされるといいのではないかなと思うので、「山岳環境の体験者数」であるとか、環境という部分がイメージできるように表現を変えていただいた方がよい。
- ・ 食品ロスについて、長井市のレインボープランの評価委員会に出て話を聞いたのだが、世界的に食品ロスの問題がよく言われるが、長井市では、生ごみリサイクルが難しい、という話だ。庄内町でもリサイクルをやめられたりしている。最近ではカット野菜の普及などにより、生ごみ自体、実は減っているのではないかと職員の方もおっしゃっている。今回の計画書の中でも、その辺のデータがないことが問題だと指摘されているが、そのとおりで、話題が先行している部分があるので、ぜひデータを取っていただきたい。長井市でも部分的に調査されたということだ。情報共有していただきたい。

#### 渡邊委員

- ・ ペットボトル関係で、国で一括回収等の実施を決定しており、県でもそれを考えているとのことだが、ペットボトルに関して、一括回収した場合、燃料として使用するのか、資源ごみとしてリサイクルに回るのか、詳しく表してもらいたい。一括回収して、次に何をするか。
- ・ ばいじんや焼却灰を再生砕石にしたものはあるが、ゼロカーボンを進める中で木質バイオマス燃料として木炭燃料を利用すると焼却灰が発生するので、そのリサイクル製品化を進める必要がある。
- ・ 山形県リサイクル認定製品をホームページやチラシで公表していると思うが、県庁の売店で展示したり、売買できるようにしてもらったりするとよい。何が認定されているかも大事だが、購入できることも考えてもらいたい。

#### 田中委員

- ・ 大変よくまとまっている。
- ・ 環境計画素案51ページに記載がある数値目標「1人1日当たりのごみ（一般廃棄物）の排出量」と、循環型社会形成推進計画素案8ページにある「家庭系ごみの排出量（1人1日当たり）」が、捉え方が違うこともあるが、一目で見ても違いがよくわからないなど、両方の計画で表記を統一した方が、より分かりやすくなる。

#### 中山委員

- ・ 先日、自然環境部会でも申し上げたが、環境計画素案8ページにあるように、今回山形県環境計画についてはいくつかの法定計画をまとめるということになっている。今回ゼロカーボンがテーマになっているので、地球温暖化対策実行計画についてはよく書かれているのではないかと思う。私は元々自然が専門なので、生物多様性戦略を見てしまうのだが、個別に作っていたものを一つにまとめることで分量が相当少なくなっている。結果的にそれぞれの視点から、本来、例えば、生物多様性戦略の視点、気候変動適応計画の視点、率先実行計画の視点で書かなければならないものを、一つにしてしまったことで、それぞれの視点が緩くなっているという感じがする。特に、環境計画素案48ページ、施策の柱3で、風力発電や再生可能エネルギーについて書かれているが、施策の柱5には具体的には書かれていない。また、施策の柱5に多様性の視点が書かれているかという点、一番最初（目指す将来の姿）に「自然環境や景観～」というふうにさらっと書かれているが、生物多様性戦略であれば、例えば、渡り鳥の通過によるバードストライクがどうのとか、以前問題になったように、出羽三山の自然景観との調和が図られるようにするとか、そういったものをきつと書くのだろうと思うが、なかなかそういうところまで手が回っていないという点が気になっている。これは一つの話でなく、至るところでそうなので、今後運用の段階できちんと対応していただくしかないのかなと思っている。計画ができてからも気をつけていただきたい。
- ・ 環境基本計画や生物多様性国家戦略を作るとき、自分たちがやる仕事でない、つまり環境省がやる仕事は当然書くが、他省庁の仕事を書くのが、非常に重要なことである。今回、県の内部の他のセクションがどうするかをきちっと整理する必要があったにもかかわらず、率先実行計画のあたりであまり書かれていないことが気になっている。環境計画素案87ページに「県自らが一事業者、一消費者でもあるという立場から」という心構えは書いてあるが、本来は、ここでは例えば、公共工事であればこういうことに留意しなければいけない、とか、教育活動であればこういうことに留意しなければならない、教育については前の方に書いてあるところがあるが、こうしたことを計画の中できちっと押さえていく必要があるが、そこがあまり書かれていないかなという気がしている。ちょっと残念な話をさせていただいたが、今後の運用の段階できちんと対応できていけばよいかと思う。苦言を呈させていただいたが、書き変えろとか付け加えろとかいう話でなく、そういうことをお考えのうえで今後運用していただきたい。

#### 國方部会長

- ・ 授業に関わって調べたら興味深いことを知った。デンマークでは再エネが非常に進んでいる。その中で大きな柱は洋上風力発電。山形県でもこれを進めるのは非常によいことと思う。もう一つ大きな柱がバイオマス発電。どういうことかと思ったら、デンマークでは1年間の1ha当たりの材木の生産量が4.9m<sup>3</sup>、それに対し日本はたった0.8m<sup>3</sup>で、6倍の差があると報告されている。逆に言えば、日本は、森林の生産性を上げる余地がまだまだかなり大きいということに

気が付いた。山形県には「やまがた緑環境税」もあるので、山形県の資源を活かしたようなものを組み込んでいただければと思う。

- ・ 中国で電気自動車が普及しているのは有名な話だが、実は中国の電力は石炭火力由来のものである。今の段階では、電気自動車を普及させると二酸化炭素排出量が増えるのが実態だ。ただ、それによって将来的な産業を作っている。
- ・ 1990年代までソーラーパネルの生産は日本企業がトップを走っていたが、現在は、世界の10位以内はほとんどが中国企業となっている。これも国の政策の影響だ。考えてみれば、国レベルの政策だけでなく、県の政策も将来の産業をつくっていくことに活かすことができるのではないか。大きな話でなくても、山形県にも利活用できる資源がたくさんあると思う。エネルギーとして利用できるものにバイオマスがあると思うが、単にそれを燃料として利用するだけでなく、ストーブなど関連する製品づくりに誘導できるような形があると思う。環境と産業を連動させるということをぜひ進めてほしい。
- ・ 計画は、全体としては非常によくできている。細かいことまで計画に盛り込めないこともあると思う。それは個別にやっていく話でもあると思う。

#### 事務局（環境企画課長）

- ・ 茨木委員から意見のあった、地球温暖化防止活動推進センターについては、これからも協働を進めていく必要があるので、計画の中に書いていく。
- ・ 堀川委員からあった用語集については、一つの用語が何箇所かに分かれて出てくるようなものもあるので、検討したい。
- ・ チャレンジという言葉については、こちらの思いとしては、決してゼロカーボンや50%削減は易しい目標ではなく、本当に県民総ぐるみで果敢に取り組んでいかなければならない課題だと思っており、こうした表現にしている。
- ・ 市町村レベルの連携が重要とのことだが、今回ゼロカーボンを進めるにあたって、市町村によって意識や取組みに差があるという認識である。市町村向けの勉強会等により計画づくりを支援したり、住民への普及についても県としてできることを支援していきたいと考えている。
- ・ 三浦委員からは、成長イメージをという御意見をいただいた。そういった姿を見える形で示すのは大事だと思っているが、どういった形でできるか、この計画でできるかというところも検討したい。
- ・ 東北地方環境事務所長から、率先実行計画について話があったが、県が実施している事務事業について省エネ省資源等の観点から、温室効果ガスを削減するという観点から、皆で一緒に取り組んでいるもの。部局とも連携をとり、どういった削減をしていくかについて、会議等も持ちながら、一緒に連携して進めているもの。今後もそういった形で進めていきたい。

#### 事務局（エネルギー政策推進課長）

- ・ 石塚委員から、やまがた新電力と同じような会社の創出の見通しはどうかというお話があったが、環境計画素案47ページ一番上の行に書いておき、やまがた新電力のノウハウを活用して、各地域に地元密着型の地域新電力会社を創っていくことを目標としたい。それにより、身近な再エネの地産地消を実現していく。
- ・ 洋上風力については、現在取組みを進めている遊佐町沖のほか、来年度から酒田市沖でも同様の取組みを進めていくよう、現在予算要求している。
- ・ 三浦委員からあった数値目標の件、熱利用のところの書きぶり、洋上風力のところの書きぶりについては引き続き検討したい。

事務局（循環型社会推進課長）

- ・ 茨木委員からの意見、環境展や3010運動の計画中での紹介については、対応したい。
- ・ 内藤委員からの意見、SDGsの対応表については、再度確認し、2計画で整合をとる。
- ・ 策定の趣旨にゼロカーボンとの一体感を出す記載についても検討したい。
- ・ 目指す姿を第2章に持ってきたらどうかという意見についても検討したい。
- ・ 循環計画素案28ページ、産業廃棄物の将来予測にコロナ関連が入っているかという質問については、これはコロナ前の昨年度に行った分析であり、コロナの影響は入っていない。産廃処分業者から実態を聞いているが、コロナの影響はまだ見えてこないようだ。ちょっと減っているかなという業者もあり、変わらないという業者もある。今後注視していく必要があり、素案26ページの冒頭にその旨記載している。
- ・ 目標に関して、家庭系の一般ごみの目標430gが機械的でないかという指摘をいただいた。再検討したい。
- ・ 評価指標の関係については、これまで、平成28年の中間見直し、その前の24年の2次計画では、施策ごとの目標という形で設定しており、中間見直しでは、展開方向に基づく具体的な施策の見直しに従って施策ごとの目標も変更している。達成・未達成も考慮して変更していたかもしれないが、基本は施策に合わせて設定することになっている。今回は全ての施策に関する評価指標を入れているわけではなく、代表的なものを採用している。御意見を踏まえ、評価指標を増やすことについて検討したい。
- ・ 三浦委員から、食品ロスについて長井市のレインボープランの話があった。市町村のデータについてはおっしゃるとおりで、事業系のデータの把握は難しいので家庭系の食品ロスのデータを取っているところもあるようだ。ただ、悉皆調査ではなく、サンプル調査で、一定の方法で処理したデータということになると思う。調査している市町村は我々もいくつか把握しているので、それを公表できるかなど情報共有し、今後我々が実施しようとしている実態調査等にも反映できると思うので、実際の事業の中で検討したい。
- ・ 渡邊委員の質問、プラごみの一括回収については、国では、資源循環のための一括回収を検討しているので、回収したプラごみは資源として使うことになる。ただ、法案はこれから提出されるので、まだ法案の中身、具体的な中身は明らかになっていない。今後法案が提出された段階で、内容を詳細に検討し、対応したい。
- ・ 燃料に使われているとか、資源ごみの状況とか、そういった現状等については、新しく作る専用ウェブサイトで県民に公表していきたい。
- ・ ばいじんのリサイクルに関して、県内のばいじん発生については、火力発電所由来のものが圧倒的に多く、それについては全量リサイクルされているということだ。しかし一部リサイクルされていないばいじんもある。その製品化については、今回の施策の中でも焼却灰を使った製品化を促進する旨記載しており、そういった中で対応したい。
- ・ リサイクル認定製品の県庁売店等での販売については、斬新なアイデアと思うので、一般向けの製品ではないというのが実情ではあるが、紹介という意味も含めて、県民への周知の一方法として、実際の事業の中で検討したい。
- ・ 田中委員から、目標値の数値についての質問があった。循環計画素案8ページの記載について指摘されたが、ここでは現状と課題についての記載なので、過去の経過を記載している。環境計画素案51ページに対応するものが、循環計画素案では31ページからになる。現状値がH30、目標値がR12である。環境計画では中間目標を設定していないので、循環計画では3つ欄がある形にはなる。「現状値」か「現状」か、用語の違いについては精査をしまいたい。

事務局（みどり自然課長）

- ・ 三浦委員から意見があった、施策の柱5における目標に掲げた「山岳観光者数」の件だが、施策の展開方向として、自然環境との共生や、山形県の環境資産の活用・継承について、国立公園・国定公園の整備とか、野外レクリエーション施設等を活用した展開を考えているということと、令和4年度の第6回山の日全国大会を通して本県の山岳資源の魅力を全国に発信し、県外の登山者の認知度の向上を図っていききたいということで、多くの登山者を山形県に呼び込みたいということストレートに目標にしている。御理解いただきたい。

#### (4) その他

##### ① 堀川委員からの情報提供・提案

新聞でも随分とSDGsという言葉が見られるようになった。環境審議会でも勉強させていただいて、私たちは比較的SDGsという言葉に対しての入り方もスムーズだったと思うが、まだまだ一般の方々に対するSDGsの啓発活動は必要になってくると思われる。環境問題だけでなく持続可能な社会をつくっていく上で、少なくとも皆が根底に持っていないと何ともならないと思っている。先だつてあるセミナーに参加したときに紹介があったものだが、神奈川県では「SDGsにチャレンジしよう」ということで、17の目標の具体的な内容と、自分たちが何ができるかということを分かりやすく書いたものを作成されている。それがすごく勉強になったので、他の県や他の取組みの中でSDGsをどうやって広めていくかというところを参考に、山形県でもきちんと周知して、皆さんがわかるような仕組みを、この際作るべきと思った。地球温暖化防止であるとかごみのリサイクルであるとか、それが社会に対してどういうふうに影響を与えているかを知る上での一丁目一番地だと思う。よろしくお願いします。

##### ② 今後のスケジュール

事務局から、資料10ページにより、計画策定に係る今後のスケジュールについて説明があった。

#### (5) 閉 会

議事録署名人 部会長 國 方 敬 司  
委 員 石 塚 久 子  
委 員 渡 邊 元 子